



薬局通信 第120号



大阪母子医療センター

新規試用または採用、採用区分が変更になった医薬品一覧

新規試用医薬品	新規採用医薬品
① エポジン注シリンジ 3000 ② セファレキシシン錠 250「日医工」 ③ アモキシシリン細粒 20%「TCK」	① フィンテブラ内用液 2.2mg/mL ② ノベルジン顆粒 5%
新規患者限定医薬品	新規院外専用医薬品
① クリアクター静注用 40万 ② ピリドキシリン塩酸塩注射液 10mg「日医工」	① アクアチムクリーム 1% ② クラシエ大柴胡湯エキス錠 ③ マーズレンS 配合顆粒 ④ つくしA・M 配合散 ⑤ プランルカスト 225mg 錠

変更した医薬品

No	院内採用削除薬品名	理由	代替薬名
1	ソタコール錠 40mg	入手不可のため	ソタロール塩酸塩錠 40mg「TE」
2	グラニセトロン静注液 3mg シリンジ「NK」	日本化薬製品の販売中止のため	グラニセトロン静注液 3mg シリンジ 「サワイ」
3	フェブキソスタット錠 10mg「DSEP」	小児適応が追加されたため (後発品に小児適応はなし)	フェブリック錠 10mg
4	ネオーラルカプセル 10mg・25mg・50mg	後発品(AG)へ切り替え	シクロスポリンカプセル「サンド」 10mg・25mg・50mg

※AG：オーソライズドジェネリックの略。先発医薬品と原薬や製造方法、添加物等が全く一緒の後発医薬品。

採用薬品の処方開始は、原則として**2023年9月5日(火)**からになります。

ただし、採用中止薬、切り替え等は院内在庫薬がなくなり次第実施となりますので開始日が異なる場合があります。

新規試用医薬品

① エポジン注シリンジ 3000 生物由来製品、劇薬、処方箋医薬品

(中外製薬株式会社) 遺伝子組換えヒトエリスロポエチン製剤

一般名：日局エポエチン ベータ (遺伝子組換え)

採用理由

エポジン注シリンジ 6000 が製造中止になり、本剤の処方頻度が上がったため。

効能効果

- 透析施行中の腎性貧血
- 透析導入前の腎性貧血
- 貯血量が 800mL 以上で 1 週間以上の貯血期間を予定する手術施行患者の自己血貯血
- 未熟児貧血

用法用量又は使用方法

効能又は効果		透析施行中の腎性貧血 [皮下投与については、連続携 行式腹膜灌流(CAPD)施行中 の腎性貧血を対象とする。]	透析導入前の腎性貧血	貯血量が800mL以上で1週間 以上の貯血期間を予定する手 術施行患者の自己血貯血	未熟児貧血	
用法及び用量	静脈内投与 成人	通常、投与初期は、1回3000国際単位を週3回、できるだけ緩徐に投与する。	通常、投与初期は、1回6000国際単位を週1回、できるだけ緩徐に投与する。	通常、体重を考慮に入れヘモグロビン濃度が13~14g/dL以下の患者を対象に、手術前の自己血貯血時期に、1回6000国際単位を隔日週3回、できるだけ緩徐に投与する。投与期間は、予定貯血量が800mLの場合は術前2週間、1200mLの場合は術前3週間を目安とする。なお、自己血採血日の投与は採血終了後に行い、患者のヘモグロビン濃度や予定貯血量等に応じて投与回数や投与期間を適宜増減する。	未熟児	
		通常、貧血改善効果が得られた後は、維持量として、1回1500国際単位を週2~3回、あるいは1回3000国際単位を週2回投与する。なお、いずれの場合も貧血の程度、年齢等により適宜増減するが、維持量での最高投与量は、1回3000国際単位、週3回投与とする。	通常、貧血改善効果が得られた後は、維持量として、患者の貧血の程度、年齢等により、1週あたり6000国際単位以下の範囲で適宜調整する。			
	貧血改善効果の目標値はヘモグロビン濃度で10g/dL(ヘマトクリット値で30%)前後とする。		通常、投与初期は、1回6000国際単位を週1回投与する。			通常、1回200国際単位/kgを週2回投与する。ただし、未熟児早期貧血期を脱し、ヘモグロビン濃度が10g/dL(ヘマトクリット値で30%)前後で臨床症状が安定したと考えられる場合は投与を中止すること。なお、貧血症状の程度により適宜増減する。
			通常、貧血改善効果が得られた後は、維持量として、1回6000~12000国際単位を2週に1回投与する。			
皮下投与 小児	通常、投与初期は、1回50~100国際単位/kgを週1回投与する。	通常、貧血改善効果が得られた後は、維持量として、1回100~200国際単位/kgを2週に1回投与する。				
		いずれの場合も貧血の程度等により適宜増減する。貧血改善効果の目標値はヘモグロビン濃度で10g/dL(ヘマトクリット値で30%)前後とする。				

処方区分：院内処方可

長期投与の可否：対象外

薬価：873円/キット

② セファレキシン錠 250「日医工」 処方箋医薬品

(日医工株式会社) セファロsporin系抗生物質製剤

一般名：セファレキシン

採用理由

本剤は、小児における骨・関節の感染症に対する治療実績が最も豊富な抗菌薬である。

代用しているセファクロールより狭域スペクトラムで、抗菌薬適正使用の観点からも必要な薬剤であるため。

効能効果

<適応菌種>

本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、大腸菌、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンスシア属、インフルエンザ菌

<適応症>

表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、筋炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、精巣上体炎（副睪丸炎）、淋菌感染症、子宮頸管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、涙嚢炎、麦粒腫、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、化膿性唾液腺炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、上顎洞炎、顎炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染

用法用量又は使用方法

通常、成人および体重 20kg 以上の小児に対しては、セファレキシンとして 1 回 250mg（力価）を 6 時間ごとに経口投与する。重症の場合や分離菌の感受性が比較的低い症例に対しては、セファレキシンとして 1 回 500mg（力価）を 6 時間ごとに経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

処方区分：院内外処方可

長期投与の可否：可

薬価：31.⁵⁰円/錠

③ アモキシシリン細粒 20% 「TCK」 処方箋医薬品

(日医工株式会社) 合成ペニシリン製剤

一般名：アモキシシリン水和物

採用理由

現在、本剤の10%細粒が採用されているが、20%細粒にすれば服用量が半量になるため。

効能効果

<適応菌種>

本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、大腸菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌、ヘリコバクター・ピロリ、梅毒トレポネーマ

<適応症>

表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、精巣上体炎（副睾丸炎）、淋菌感染症、梅毒、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、涙嚢炎、麦粒腫、中耳炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、猩紅熱、胃潰瘍・十二指腸潰瘍におけるヘリコバクター・ピロリ感染症

用法用量又は使用方法

成人

アモキシシリン水和物として、通常1回250mg（力価）を1日3～4回経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

小児

アモキシシリン水和物として、通常1日20～40mg（力価）/kgを3～4回に分割経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日量として最大90mg（力価）/kgを超えないこと。

処方区分：院内外処方可

長期投与の可否：可

薬価：11.¹⁰円/g